

音楽という表現の 拡がりとともに

音楽とは、いったい何なのでしょう。現代はさまざまな種類の音楽が絶えず消費されている一方で、一般に音楽とは受けとられにくい音楽が存在しています。音楽といえるものと音楽とはいえないもの、それらは明確な境界線で隔てられるものなのでしょうか。私たちはどのような判断でそれらを分けるのでしょうか。近代の幕開けとともに、音楽をふくめた芸術表現はさまざまな拡がりを見せつつ激変し、今もその途上にあります。「音楽から音楽ではないものへの変容」や「音楽ではないものの音楽への転移」なども、そのひとつです。二つの〈ワークショップ〉では、「耳を澄まし感覚を開く」ことを通して「物音も音楽になりうる」ことを体感します。(シンポジウム+映画上映)では、「物音による音楽(ミュージック・コンクレート=具体音楽)」の創始者であるピエール・シェフェール(1910-1995)の創作を題材にしたドキュメンタリー映画を上映し、さらに多彩なパネラーの方々のトークによって、「音楽以外のものへ」あるいは「音楽以上のものへ」と拡張する音楽の新たな表現の可能性を考えます。

MOMAS サウンドスケープ ワークショップ

2010年11月28日(日)

13:00~16:00

埼玉県立近代美術館3階講座室

講師：柴山拓郎

美術館はどんな「音」？ 街はどんな音？ 耳を澄まして感覚を開き、私たちを取り囲む「物音」を聞いてみましょう。どんな音たちが聞こえてくるのでしょうか、そしてそれらはどんな音なのでしょうか。そして、その音たちを私たちはどうやってヒトに伝えることができるのでしょうか。そこには、「音の風景=サウンドスケープ」から拡がる不思議な世界があります。

2

MOMAS音モニタージュワークショップ

2010年12月19日(日)

11:00~17:00 昼食(12:30~13:30)は各自となります。

埼玉県立近代美術館3階講座室

講師：柴山拓郎

音楽的な知識は不要です。音なら何でも！ 机を叩く音、キーホルダーの音、しゃべる声、どんな物音からも音楽が作れます。その場で物音を録音して、コンピュータで切り貼りして音楽を作ってみましょう！ 最後に参加者によるミニコンサートを実施。また、制作した音楽はCDに焼いてお持ち帰りいただき、ご家庭のオーディオでお楽しみ下さい。

4

「記憶の投影」サウンド・オブジェ

2010年11月16日(火)~2011年1月16日(日)

埼玉県立近代美術館1階エントランスホール

制作：東京電機大学理工学部「作曲・音楽文化研究室」

美術館の周辺には、街を行き交う人びとや車の物音、虫や鳥たちが告げる季節の音などが響いています。そして、美術館という建物もまた、利用する人たちの話し声や足音などを響かせながら日々を過ごしています。それらの物音を美術館の記憶としてとらえ、「サウンド・オブジェ」としてエントランスホールに空間投影します。

入場・参加無料

※〈ワークショップ〉のみ事前申込制(参加無料)：いずれも定員20名・中学生以上対象、小学生の参加は保護者の同伴をお願いいたします。それぞれの参加希望のプログラムを①(11月28日)、②(12月19日)と番号で明記し、「住所・氏名・年齢・連絡先電話番号」をお書きの上、宛先を「SMF・音楽という表現の拡がりとともに係」として、①メール(takuro@ia.dendai.ac.jp)②ファックス(048-824-0118)③ハガキ(〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1 埼玉県立近代美術館)のいずれかでお送りください。先着順に受け付け、定員になり次第締め切り、ホームページ(<http://artplatform.jp>)でお知らせいたします。※〈シンポジウム+映画上映〉(2011年1月16日)は当日、会場へお越しください(申込不要)。先着50名。

主催：埼玉県立近代美術館「交差する風・織りなす場」実行委員会
〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1 (JR京浜東北線「北浦和」西口徒歩3分。東京方面からは「大宮」行をご利用ください)

協力：東京電機大学理工学部、「音と音楽・創作工房116」、NPO法人アートバーブズフォーラム
問い合わせ：埼玉県立近代美術館「交差する風・織りなす場」実行委員会事務局
tel: 048-824-0110 / fax: 048-824-0118 / e-mail: SMF.info@artplatform.jp

SMFは身近な場所でアートを享受し支援し
再創造するプラットフォームをめざしています。

<http://artplatform.jp>

SMF
Sailama Muse Forum

3

シンポジウム 「音楽という表現の 拡がりとともに」

2011年1月16日(日)

13:00~17:00

埼玉県立近代美術館2階講堂

●トークセッション

「音楽という表現の拡がりとともに」

パネラー：伊藤俊治(美術評論・東京藝術大学教授)
沼野雄司(音楽学・桐朋学園大学准教授)
古川聖(作曲家・東京藝術大学准教授)
成田和子(作曲家・同志社女子大学教授)

●映画上映

《ピエール・シェフェールの音楽のレッスン~
ミュージックコンクレートから音楽そのものへ》

La leçon de musique de Pierre Schaeffer : de la musique concrète à la musique même

1978年ナット・リレンシュタイ監督

音楽・美術ともに、それぞれの表現領域を大きく拡張してきた背景や要因について「近代」をキーワードに概観します。映画上映では、今年生誕100周年を迎える、ミュージック・コンクレートの創始者ピエール・シェフェール(1910-1995)の美学と哲学をとらえた映画を上映。音楽分野・美術分野双方の専門家を招き、それぞれのジャンルを越境する今後の表現の可能性を探ります。

音楽という表現の 拡がりとともに

- 1 MOMAS サウンドスケープワークショップ
2010年11月28日(日) 13:00~16:00 埼玉県立近代美術館3階講座室 講師：柴山拓郎
- 2 MOMAS音モンタージュワークショップ
2010年12月19日(日) 11:00~17:00 埼玉県立近代美術館3階講座室 講師：柴山拓郎
- 3 シンポジウム「音楽という表現の拡がりとともに」
2011年1月16日(日) 13:00~17:00 埼玉県立近代美術館2階講堂
- 4 「記憶の投影」サウンド・オブジェ
2010年11月16日(火)~2011年1月16日(日)
埼玉県立近代美術館1階エントランスホール 制作：東京電機大学理工学部「作曲・音楽文化研究室」

シンポジウムパネラー



伊藤俊治 Toshiharu Ito (美術評論家・東京藝術大学教授)

1953年生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、東京大学大学院人文科学研究科西洋美術史専攻修了。現在東京藝術大学先端芸術表現科教授、美術史家・美術評論家。美術や建築デザインから写真映像やメディアまで幅広い領域を横断する評論や研究プロジェクトをおこなう。『20世紀写真史』(筑摩書房)、『写真史』(朝日出版社)、『〈写真と絵画〉のアルケオロジー』(白水社)など著作・訳書多数。また『記憶／記録の漂流者たち』(東京都写真美術館)、『日本の知覚』(クストハウス・グラーツ、オーストリア)など内外で多くの展覧会を企画し、文化施設や都市計画のプロデュースもおこなう。『ジオラマ論』(リプロボート)でサントリー学芸賞受賞(1987年)。



沼野雄司 Yuji Numano (音楽学・桐朋学園大学准教授)

1965年東京生まれ。武蔵野音楽大学音楽学学科を経て、東京藝術大学大学院修士課程、および博士課程を修了。2008年~2009年、ハーバード大学客員研究員。博士(音楽学)。訳書に『リゲティ・ベリオ・ブルーゼ 前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』(音楽之友社)、『光の雅歌』(共著、春秋社)、『日本戦後音楽史上・下』(共著、平凡社)、『世界音楽の時代』(共訳、音楽之友社)など。現在、桐朋学園大学准教授。



成田和子 Kazuko Narita (作曲家・同志社女子大学教授)

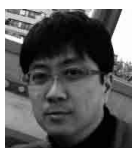
1957年東京生まれ。パリ国立コンセルヴァトワールで学び、和声科・対位法科・フーガ科・作曲科を卒業。電子音響音楽を1983年よりGRM(フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ)で、コンピュータ音楽を1985年よりIRCAM(音響音楽研究所/パリ)で学ぶ。マックス・ドイチェ国際作曲コンクール入賞(1983)、ヤニス・クセナキス国際作曲コンクール入賞(1983)、第27回武井賞受賞(1985)、第12回文化庁舞台芸術創作奨励賞佳作受賞(合唱部門、1990)などを受賞。作品カタログには、管弦楽曲、室内楽曲(邦楽作品を含む)、声楽曲、電子音響音楽作品など約70曲あり、日本およびフランスのフェスティバルやコンサートで演奏されている。同志社女子大学芸術学部音楽学科教授。



古川聖 Kiyoshi Furukawa (作曲家・東京藝術大学准教授)

1959年東京生まれ。ベルリン、ハンブルクの音楽アカデミーでイサン・ユン、ジョルジ・リゲティのもとで作曲を学ぶ。作品は、新しいメディアと音楽の接点において成立するものが多く、1997年のZKM(カールスルーエ・アート・アンド・メディア・センター)の新館のオープニングでは委嘱を受け、マルチメディアオペラ『まだ生まれぬ神々へ』を制作・作曲。2000年より東京藝術大学・先端芸術表現科准教授。社会の中で表現行為が起こる場・新しいアートの形を探して、2002年より新しいメディアを使ったワークショップを世界各国で行っている。

ワークショップ講師・スタッフ



柴山拓郎 Takuro Shibayama (作曲家・東京電機大学講師)

1971年東京生まれ。東京音楽大学および同大学院で学んだ後、東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程を修了。作曲を西村朗、池辺晋一郎、湯浅譲二、古川聖の各氏に師事。修士(音楽)、博士(美術)。美術家井上尚子氏とのユニット「AirPlug」で表現領域を横断する作品を制作展開中。現在、言語・認識・知覚といった横断的な文脈から自身の表現と思考を日々黙々と深化させている。東京電機大学理工学部専任講師のほか、大阪芸術大学、国際基督教大学、常葉学園大学、女子美術大学非常勤講師。

作曲・音楽文化研究室

東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系にある、作曲家柴山拓郎の指導のもと研究・創作活動を展開する研究室。音楽表現を、人間が歴史の中で文化そのものを進化させてきた流れの中で捉え、新たな表現の方法とその意味を総合的に創出するための発想力と実践力の獲得を目指す。大学3年生~院生までが所属し、どこまでヘンテコな音楽を音楽として捉えられるのかという、限界ギリギリの表現を追求。【院生】大石純司、アプレット・アイビブラ、横山博樹 【研究生】中村隆行、入間川篤、遠田英則、木田大輔 【4年】朝倉直和、岩山高、牛山大肇、内田駿平、窪田航平、郡司健人、小島圭織、佐藤智彦、鮫島綾子、高藤和磨、矢口俊、山口達也、吉田政則、吉富竜正、傳田崇史、竹内祐介 【3年】天下井隆宏、伊藤哲朗、井上雄太、上田佳祐、太田悠、木村竜一、黒川竜太郎、高麗研二、新保祐一、谷口智朗、中嶋宏聡、並木隆明、野沢竜一、藤原正裕、古澤世理佳、町田優樹、阿部勇也

埼玉県立近代美術館

